

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財) 第五福竜丸平和協会
〒136-0081 東京都江東区 夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494



6月10日の展示館開館記念日を前に、多くの中学校が展示館を訪ねた。写真は犬山市立犬山中学校の3年生。5名の修学旅行での来館だった。

六月に入り、学校の前を流れる木曾川からさわやかな風が吹きこんでいます。私は当日訪問させていただいた時とても緊張していました。でも笑顔で迎えていただいていたその緊張がいつか消えてしまいました。質問にこたえていただいたり真剣に話される姿はぐっと来るものがありました。いまでも核実験の影響で苦しんでいる人がいるなんてビックリしました。この学習を通してさらに自分の課題を追究していきたいと考えています。とても短い間でしたがとてもうれしかったです。もし犬山にくる機会があれば私たちの学校にぜひお立ち寄り下さい。

(犬山中学校三年 プレルナ・バクシさん、水野友喜さんほか)

こんにちは。先日は私たちのために大切な時間を使ってくれたことありがとうございました。展示館を訪ねて一番驚いたことは、第五福竜丸そのものが展示してあり、さわっても写真を撮っても大丈夫だったということです。そういうことができたのでより理解できたと思います。

お話をうかがって驚いたのは核実験がいままで世界で二千回以上行なわれていたということです。今年になっても二、三回行なわれたというのにも驚きました。私は「どのくらい実験が行なわれたと思いますか」と質問されたとき「百単位かな」と思っていました。信じられない数だったので本当にびっくりしました。

お話の最後に聞かれた質問「第五福竜丸を見て感じたことは何ですか」に答えたいと思います。私は第五福竜丸を見て、被爆の怖さとともに、もう二度とこういうことがないようにしようという人々の願いを伝えているんだなと思いました。船がある限り若い人がたくさん訪れて、このことを知るべきだと思いました。

私はこの展示館を訪ねると決まるまでこの船の存在、展示館のことも全く知りませんでした。でも今はうかがえたことをとてもうれしく思います。これからもたくさんの方に第五福竜丸のことを知ってもらえるよう日々がんばって下さい。

(伊勢市立港中学校三年三組 福川奈緒美さん) 〓 同中学校は五名ずつの班を組んで都内32ヶ所を各一班で訪ねた。

開館24周年を前に展示館を訪ねた中学生からの手紙から

アメリカから研究者来館
五月二十一日、アメリカからバックネル大学東亜研究学部助教授ジェームス・オーアさんが来館、協会理事の斎藤鶴子さんと黎明期の原水爆禁止運動について二時間余対談しました。オーアさんは戦後の日本の市民意識・市民運動が長年の研究テーマ、原水爆禁止運動の誕生の契機ともなった第五福竜丸の出来事は最大の関心事であり、戦後始めての草の根運動であった署名運動、杉の子会、草の実会の運動を詳しく知りたくと斎藤鶴子さんと約束、この日交歓が実現したものでした。斎藤さんは杉の子会の読書会の様子、安井郁教授の思い出など感慨深げに語りました。



対談するジェームス・オーアさん(左)と斎藤鶴子さん

核兵器、JCO、NPT 服部 学

一口に核兵器といってもいろいろある。ポロニウムなどは原子爆弾、水素爆弾、中性子爆弾等である。

原子爆弾は一九四五年七月十六日にニューメキシコ州のアラモゴード砂漠で初めて実験に成功し、二十日後の八月六日には広島に、九日には長崎に投下された。原爆の効果は、爆風、熱線、放射線に大別されるが、爆発の威力だけでなく両者は火薬に換算して一五〇〇〇(二〇〇〇)トンに相当するものがあった。広島型はウラン235、長崎型はプルトニウム239の核分裂反応を使ったものであった。その後いくつかの国も原爆をつくり始めた。

一九五四年三月一日、米国はビキニ環礁で水素爆弾の爆発実験を行い、第五福竜丸が大量の灰を浴びた。その爆発力は広島型原爆の千倍以上、火薬に換算して約二〇〇〇万トンであった。水爆は、原爆で発生した熱を利用して重水素やリウムの核融合反応を起こさせたものである。つまり水爆には起爆剤として必ず原爆が使われる。

建物や戦車内の人間にだけ影響を及ぼす。今度の東海村のJCOの事故は、結果としてまさに中性子爆弾の効果の実験であった。爆発はまったく起こってないが、多くの方が中性子に被曝し、二人の方が亡くなりました。今度の事故は、材料さえあれば中性子爆弾は極めて簡単に作れることを示してくれました。しかも科学技術庁の監督下での話である。私があえてこんなことを書くのは、今度の事故に関する測定データをいろいろ持っている東海村の原子力研究所が、それを発表できなくなってきたからである。これは明らかに公開の原則に反している。

もっとも原爆だって五十年以上も前の兵器である。原爆に原理的な秘密など存在しない。そしてNPT条約(核拡散防止条約)第九条で、原爆保有を認められた国は全て、原爆を作ればまもなく水爆も作っていることを忘れてはならない。

このNPT条約は五年前に無期限延長が認められ、今年の四月二十四日から五月十九日までニュージーランドで再検討会議が開かれた。この会議は事実上「新アジェンダ連合」(アイルランド、

スウェーデン、メキシコ、ブラジル、ニュージーランド、エジプト、南アフリカ)と核兵器国とのやりとりだったようである。日本は新アジェンダ連合に加わることを拒否しており、日本政府の持ち出した「究極的な核兵器廃絶」の文言は全く省みられなかったそうである。日本の核軍縮外交の失敗と言えらる。最後の日の夜半少し前に、議長が時計を停めて、翌日の夕方になってようやく全会一致で最終文書がまとまったが、本質的な前進とは言えないと思う。

広島に原爆が投下された翌日、ローマ法王ヨハネ・パウロ二世は、「日本における原子爆弾の使用は極めて遺憾である」とはっきり述べられている。世界最初の原爆反対声明であった。またおそれ多くもかしこくも、昭和二十年八月十四日の「太平洋戦争終結ニ関スル詔書」には、「敵ハ新ニ残虐ナル爆弾ヲ使用シテ頻ニ無辜ヲ殺傷シ惨害ノ及ブ所真ニ測ルヘカラスルニ至ル」と書かれて、御名御璽の印が押ししてある。要するに「神の国では核兵器を使うべきではない」ということである。日本政府はもっとも真剣に核兵器廃絶の先頭に立つべきである。

(立教大学名誉教授・協会理事)

二十世紀の巨匠たちの言葉 基本的な考え方を想起する

川崎 昭一郎

疑いなく、水爆戦争では大都市が消滅してしまうだろう。しかしこれは、私たちが直面しなければならぬ小さな惨事の一つである。たとえ、ロンドン、ニューヨーク、モスクワの全ての人が全滅したとしても、世界は二、三世紀のうちに打撃から回復できるかもしれない。しかし私たちは今では、とくにビキニ実験以来、核爆弾は想像されていたよりもはるかに広い地域に徐々に破壊を広げることができている。非常に確かな権威筋によれば、今や広島を破壊したものの二五〇〇倍も強力な爆弾を製造できると言われている。そのような爆弾は、地上近くまたは水中で爆発させられれば、放射能を持った微粒子を上空へ送る。それらの粒子は死の塵または雨の形で、徐々に沈下し地球の表面に到達する。この

塵こそが日本の漁夫たちとその漁獲物に悪影響をもたらしたのであった。

そのような致死的な放射能を持った粒子がどれほど広く拡散するかはだれにも分からないが、しかし最も権威ある人々は一一致して、水爆を用いた戦争は人類に終末をもたらすことが十分にあり得ると述べている。もし多数の水爆が使用されるならば全般的な死が起こることが危惧されている。少数部分には瞬間的な死が、多数のものには病氣と肉体破壊のゆっくりと進む苦悩が。

これはラッセル・アインシュタイン宣言(一九五五年七月九日発表)からの抜粋です。

ここで取り上げられている「死の塵」、すなわち「死の灰」との関連で、先日亡くなられた武谷三

男教授は「許容量」という概念について鋭い分析を行い、原水爆禁止運動に強力な理論的武器を提供しました。

許容量というのは、普通、「無害な量」と受け取られているが、放射能というものは人体に対して、どんな少量でもそれなりに有害であることが科学的に大体認められている、と武谷教授は指摘しました。

微量の放射能はすぐに病気になる、急性症状を示さないが、微量の放射線の場合でも少しづつ受け続けると、結果として、受けた多数の人達の中には統計的に白血病になったり、骨ガンになったり、遺伝的な害を受ける、そしてその統計的な割合は、放射線を受けた量に比例して現れる、ということ。

しかし、レントゲン検査のように、これを使うことが必要であり、有利なこともある。そこで、このような有害さとひきかえに有利さを得るバランスを考え、「どこまで有害さがまんまるかの量」が許容量であり、それは科学的な量ではない。どれだけ量ならどれだけの害をこうむるかを明らかに

にするのが科学であり、それが明らかにになった段階で、どこまでがまんまるかが来るのであり、これは科学の問題ではない、と武谷教授は強調しました。

武谷教授は、科学者の自由な議論の中から具体的な形に結晶化させていく面であまりな才能をお持ちでした。公開・民主・自主の原子力平和利用三原則の場合もそうでした。公開の原則を大変重視されていたのが今でも印象に残っています。

六月十日は、第五福竜丸展示館の開館24周年記念日です。このときに当たり、ビキニ事件・第五福竜丸に触れた二十世紀の巨匠たちの言葉、基本的な考え方を改めて想起することは、新しい世紀における私たちの羅針盤の針を正しく向ける上で欠かせないと考えます。(第五福竜丸平和協会会長)



福竜丸について思うこと

肥田 舜太郎

福竜丸がビキニ環礁でアメリカの水爆実験による死の灰を浴びたことを知ったのは、東京から埼玉へ移って民主診療所を始めて間もない頃でした。当時は私が広島市の被爆者であることを知った被爆者が近県から、人目を避け、内密に医療相談を受けに来ていました。被爆者であることを知られると、自分は勿論、子供の就職、結婚に支障の起こることを恐れたのと、間違うと米軍憲兵、日本の警察の監視を受ける恐れがあったからです。

私は広島・長崎の被爆後、占領権力が被害者に起こる放射線の影響を世界の世論に知られることを恐れ、被爆者には沈黙を強い、被爆者を診療した医師の報告や研究を厳重に禁止した事実を身をもって知っていたので、ビキニの報道が被曝した乗組員の病状よりもマダゴロの汚染を大々的に宣伝し、船団を組んで出漁していた苦悩の

福竜丸だけが被爆したかのように報道することに猛烈な憤りを感じていました。案の上、ビキニ被曝の犠牲者は久保山さん一人に止まられ、ほかの乗組員は後に放射線医学総合研究所(放医研)を担当した東大の医療班の手で秘密裡に管理されて一切報道されず、数百隻と言われた他の漁船の乗組員は被爆者扱いもされず、精密検査もされずに放置されました。最近、高知県の民主勢力や民医連の調査で、当時、二十歳代だった被曝船員の多くが癌で死亡している事実が明らかにされています。

アメリカの核の傘に守られるという安保条約の恩恵を国民に強調するため、原発の安全神話を鼓吹するために、広島・長崎で低線量放射線の被害を受けた遠距離被害者や、後から市内に入った被害者と、ビキニ環礁近海の日本漁船船員及び、現地原住民の深刻な被害は、今も隠し続けられ、これら

の被害者に放射線被害は一切無いと断言してきたアメリカと日本政府の非人道的には、百万言を費やしても糾弾し切れることはありません。

日本の医師、医学者は、広島・長崎で人類史上初めて使用された原爆の人体への医学的被害の研究と治療の探求を独自に行うことを禁止された上、アメリカがABC Cを通じて入手した放射線被害の資料も、重要な部分は軍事機密を理由に報告を拒否されました。そのため、日本の医学会は唯一の被爆国でありながら、世界の医師、医学者に対し、高線量は勿論、低線量放射線被害に対する診断、治療の方法を何等、示し得ないのが現状です。

現在アメリカ国内で核兵器の原料採掘、製造、実験、貯蔵、輸送、核燃料再処理の各段階で作られている数百万の被爆者をはじめ、他の核保有国及び原発が稼働する国々に潜在している無数の放射線被害者は、現在の医学、医療が放射線障害に対する診断、治療の方法を持たないと言ふ不幸な状態に加え、その研究も必要な頭脳と経費の大半を新しい核兵器開

発に動員され、あまつさえわずかな良心的研究も核兵器の軍事機密に遮げられて一歩もすすまないという現状におかれています。

人類は核分裂エネルギーを安全に管理する能力を持つ以前に、事もあろうに大量殺戮兵器に用いるという過ちを経験しました。福竜丸は、核兵器を戦争に使用して広島・長崎の人間を大量に殺した悪魔がその悪行に懲りず、平和な海でマダゴロを獲る漁民の命まで奪うと言う狂人じみた暴挙の犠牲であり、核兵器を廃絶せぬ限り、形を変えて起こり得る核悲劇の典型として、核兵器廃絶運動の歴史の中にその名を刻まなければならないと思います。

願わくば、福竜丸保存のために尽くされた貴重な運動を、核兵器の直接犠牲者である被爆者運動と、核兵器廃絶を闘う諸勢力の活動と、それぞれ独自の性を明らかにしながら統一、総合して、二十一世紀に伝えられるダイナミックな反核・平和運動史がそろそろ書かれてもよい時期ではないかという願望を述べて、稿を終ります。

(日本被曝協原爆被爆者
中央相談所理事長)